



クラスタへの Cisco Nexus Dashboard Data Broker ソフトウェアの導入

リリース 3.10.1 から、Cisco Nexus Data Broker (NDB) の名前は、Cisco Nexus Dashboard Data Brokerに変更されました。ただし、GUIおよびインストールフォルダ構造と対応させるため、一部のNDBのインスタンスがこのドキュメントには残されています。NDB/Nexus Data Broker/Nexus Dashboard Data Brokerという記述は、相互に交換可能なものとして用いられています。

この章には、次の詳細が含まれています。

- [Cisco Nexus Dashboard Data Broker クラスタのインストール \(1 ページ\)](#)
- [Cisco Nexus Dashboard Data Broker クラスタのアップグレード \(3 ページ\)](#)

Cisco Nexus Dashboard Data Broker クラスタのインストール

Cisco NDB クラスタをインストールするには、以下の手順に従います。

始める前に

前提条件：

- Cisco NDB は、2 ノードおよび 3 ノード クラスタをサポートします。
- すべての IP アドレスは、到達可能で、相互に通信する必要があります。
- クラスタ内のすべてのスイッチは、すべてのコントローラに接続する必要があります。
- すべてのコントローラは、同じ HA クラスタリング設定情報を config.ini ファイルに持つ必要があります。
- クラスタを形成するには、すべての NDB インスタンスが同じ NDB バージョンである必要があります。

- クラスタ パスワードを使用する場合、すべてのコントローラは同じパスワードを **ndbjgroups.xml** ファイルに設定する必要があります。HA クラスタのパスワード保護セクション (*Cisco Nexus Dashboard Data Broker Configuration Guide*) を参照してください。



(注) クラスタを形成するすべてのNDBインスタンスは、同じNDBバージョンである必要があります。

ステップ 1 Web ブラウザで、www.cisco.com に移動します。

ステップ 2 下方向へスクロールして、[ダウンロード (Downloads)] をクリックします。

ステップ 3 [製品の検索 (Select a Product)] 検索ボックスに「Nexus Dashboard Data Broker」と入力すると、最新リリースの[ソフトウェア ダウンロード (Software Download)] 画面が自動的に表示されます。

リリース 3.10.2 のファイル情報 : Cisco Nexus Data Broker Software Application: ndb1000-sw-app-k9-3.10.2.zip が表示されます。

ステップ 4 Cisco Nexus Data Broker アプリケーションバンドルをダウンロードします。入力を求められたら、Cisco.com のユーザー名およびパスワードを入力して、ログインします。

ステップ 5 Cisco Nexus Data Broker をインストールする予定の Linux マシンにディレクトリを作成します。

たとえば、ホーム ディレクトリに、ciscoNDB を作成します。

ステップ 6 作成した NDB ディレクトリに Cisco Nexus Data Broker の zip ファイルをコピーします。

ステップ 7 Cisco Nexus Data Broker の zip ファイルを解凍します。

Cisco Nexus Data Broker ソフトウェアが ndb というディレクトリにインストールされます。ディレクトリには、次の内容が含まれます。

- runndb.sh ファイル : NDB を起動するためのファイル。
- version.properties ファイル : NDB ビルドバージョン。
- 構成ディレクトリ : NDB 初期化ファイルが含まれています。このディレクトリには、構成が保存されている startup サブディレクトリが含まれます。
- bin ディレクトリ : NDB 共通 CLI を持つ NDB ファイルが含まれています。
- etc ディレクトリ : プロファイル情報が含まれています。
- lib ディレクトリ : NDB Java ライブラリが含まれています。
- logs ディレクトリ : NDB ログが含まれています。

(注) logs ディレクトリは、NDB アプリケーションの起動後に作成されます。

- plugins ディレクトリ : NDB プラグインが含まれるディレクトリ。

- work ディレクトリ : Web サーバーの作業ディレクトリ。

ステップ 8 ソフトウェアをインストールしたときに作成された `ndb/configuration` ディレクトリに移動します。

ステップ 9 任意のテキスト エディタを使用して `config.ini` ファイルを開き、次のテキストを見つけます。

```
# HA Clustering configuration (semi-colon-separated IP addresses of all controllers that are part
of the cluster.)
# supernodes=<ip1>;<ip2>;<ip3>;<ipn>
```

ステップ 10 スーパーノードで構成される行のコメントを外し、`<ip*>` を NDB サーバーの IP で置き換えます。

```
IPv4 example:
# HA Clustering configuration (semi-colon-separated IP addresses of all controllers that are part
of the cluster.)
supernodes=10.1.1.1;10.2.1.1;10.3.1.1

IPv6 example:
# HA Clustering configuration (semi-colon-separated IP addresses of all controllers that are part
of the cluster.)
supernodes=2001:22:11::1;2001:33::44::1;2001:55:66::1
```

ステップ 11 ファイルを保存し、エディタを終了します。

ステップ 12 NDB がインストールされているすべての Linux マシンで、手順 5 から 11 を繰り返します。

ステップ 13 `./runndb.sh -start` コマンドを使用して、プライマリ NDB サーバーを起動します。

ステップ 14 プライマリ NDB サーバーの GUI が起動したら、`./runndb.sh -start` コマンドを使用して他の NDB サーバーを起動します。

Cisco Nexus Dashboard Data Broker クラスタのアップグレード

始める前に

前提条件：

- Cisco Nexus Dashboard Data Broker は、2 ノードおよび 3 ノード クラスタをサポートします。偶数のノードを構成すると、最後のノードがクラスター形成に含まれないため、セットアップ内のノードの数は奇数にしてください。
- すべての IP アドレスは、到達可能で、相互に通信できる必要があります。
- クラスタ内のすべてのスイッチは、すべてのコントローラに接続する必要があります。
- すべてのコントローラは、同じ HA クラスタリング設定情報を `config.ini` ファイルに持つ必要があります。
- クラスタを形成するには、すべての Nexus Dashboard Data Broker インスタンスが同じ Nexus Dashboard Data Broker バージョンである必要があります。

- クラスタ パスワードを使用する場合、すべてのコントローラは同じパスワードを **ndbjgroups.xml** ファイルに設定する必要があります。 *Password Protecting for HA Clusters* のセクション (*Cisco Nexus Data Broker Configuration Guide*) を参照してください。



(注) クラスタを形成するすべての Nexus Dashboard Data Broker インスタンスは、同じ Cisco Nexus Dashboard Data Broker バージョンである必要があります。

- ステップ 1 Cisco Nexus Dashboard Data Broker プライマリ サーバーにログインします。
- ステップ 2 [管理 (Administration)] > [バックアップ/復元 (Administration)] に移動します。
- ステップ 3 [ローカルでバックアップ (Backup Locally)] をクリックして、構成ファイルをダウンロードします。
- ステップ 4 **runxnc.xh -stop** コマンドを使用して、すべての Cisco Nexus Dashboard Data Broker インスタンスを停止します。
- ステップ 5 NDB サーバーと NDB デバイスの間で TLS 証明書が有効になっている場合は、`/xnc/configuration` から `tlsTrustStore` および `tlsKeyStore` ファイルのバックアップを構築します。
- ステップ 6 すべての NDB クラスタ インスタンスで前の手順を実行します。
- ステップ 7 Web ブラウザで、www.cisco.com に移動します。
- ステップ 8 [サポート (Support)] > [製品 (Products)] > [ダウンロード (Downloads)] に移動します。
- ステップ 9 製品とダウンロードの検索ボックスに「Nexus Data Broker」と入力し、検索応答リストから「ダウンロード (Downloads)」をクリックします。
- リリース 3.10.2 のファイル情報 : Cisco Nexus Dashboard Data Broker Software Application : `ndb1000-sw-app-k9-3.10.2.zip` が表示されます。
- ステップ 10 Cisco Nexus Dashboard Data Broker のアプリケーションバンドルをダウンロードします。入力を求められたら、Cisco.com のユーザー名およびパスワードを入力して、ログインします。
- ステップ 11 Cisco Nexus Dashboard Data Broker をインストールする予定の Linux マシンにディレクトリを構築します。たとえば、ホーム ディレクトリに Cisco Nexus Dashboard Data Broker を構築します。
- ステップ 12 Cisco Nexus Dashboard Data Broker の zip ファイルを、構築したディレクトリにコピーします。
- ステップ 13 Cisco Nexus Dashboard Data Broker の zip ファイルを解凍します。
- Cisco Nexus Dashboard Data Broker ソフトウェアは、`ndb` というディレクトリにインストールされます。ディレクトリには、次の内容が含まれます。
- `runndb.sh` ファイル : NDB を起動するためのファイル。
 - `version.properties` ファイル : NDB ビルドバージョン。
 - 構成ディレクトリ : NDB 初期化ファイルが含まれています。このディレクトリには、構成が保存されている `startup` サブディレクトリが含まれます。
 - `bin` ディレクトリ : NDB 共通 CLI を持つ NDB ファイルが含まれています。

- etc ディレクトリ：プロファイル情報が含まれています。
- lib ディレクトリ：NDB Java ライブラリが含まれています。
- logs ディレクトリ：NDB ログが含まれています。

(注) logs ディレクトリは、NDB アプリケーションの起動後に作成されます。

- plugins ディレクトリ：NDB プラグインが含まれるディレクトリ。
- work ディレクトリ：Web サーバーの作業ディレクトリ。

ステップ 14 ソフトウェアをインストールしたときに作成された `ndb/configuration` ディレクトリに移動します。

ステップ 15 任意のテキスト エディタを使用して `config.ini` ファイルを開き、次のテキストを見つけます。

ステップ 16 次のテキストを探します。

```
# HA Clustering configuration (semi-colon-separated IP addresses of all controllers that are part
of the cluster.)
# supernodes=<ip1>;<ip2>;<ip3>;<ipn>
```

ステップ 17 スーパーノードで構成される行のコメントを外し、`<ip*>` を NDB サーバーの IP で置き換えます。

```
IPv4 example:
# HA Clustering configuration (semi-colon-separated IP addresses of all controllers that are part
of the cluster.)
supernodes=10.1.1.1;10.2.1.1;10.3.1.1
```

```
IPv6 example:
# HA Clustering configuration (semi-colon-separated IP addresses of all controllers that are part
of the cluster.)
supernodes=2001:22:11::1;2001:33::44::1;2001:55:66::1
```

ステップ 18 ファイルを保存し、エディタを終了します。

ステップ 19 NDB がインストールされているすべての Linux マシンで、手順 7 から 18 を繰り返します。

ステップ 20 `./runndb.sh -start` コマンドを使用して、プライマリ NDB サーバーを起動します。

ステップ 21 プライマリ NDB サーバーの GUI が起動したら、`./runndb.sh -start` コマンドを使用して他の NDB サーバーを起動します。

ステップ 22 プライマリ NCS サーバーの NDB GUI にログインします。

ステップ 23 [管理 (Administration)] > [バックアップ/復元 (Backup/Restore)] > [アクション (Actions)] > [ローカルで復元 (Restore Locally)] に移動し、以前にダウンロードした構成をアップロードします。

ステップ 24 `./runndb.sh -stop` コマンドを使用して、クラスタ内の NDB のすべてのインスタンスを停止します。

ステップ 25 NDB サーバーと NDB スイッチの間で TLS 証明書が有効になっている場合は、`tls TrustStore` および `tlSKeyStore` ファイルを、手順 5 で確認した、すべての NDB インスタンスの `ndb/configuration` にコピーします。

ステップ 26 `./runndb.sh -start` コマンドを使用して、プライマリ NDB サーバーを起動します。

TLS 証明書が有効になっている場合は、以下のコマンドを使用して NDB サーバーを起動します。

```
./runndb.sh -tls -tlskeystore ./configuration/tlsKeyStore -tlstruststore
./configuration/tlsTrustStore
bin/ndb config-keystore-passwords --user <NDB_username> --password <NDB_password> --url
```

```
https://<Cluster_NDB_IP>:8443 --verbose --prompt --keystore-password <keystore-password>  
--truststore-password <truststore-password>
```

ステップ 27 `./runndb.sh -start` コマンドを使用して、メンバー NDB サーバーを起動します。

TLS 証明書が有効になっている場合は、以下のコマンドを使用して NDB サーバーを起動します。

```
./runndb.sh -tls -tlskeystore ./configuration/tlsKeyStore -tlstruststore  
./configuration/tlsTrustStore  
bin/ndb config-keystore-passwords --user <NDB_username> --password <NDB_password> --url  
https://<Cluster_NDB_IP>:8443 --verbose --prompt --keystore-password <keystore-password>  
--truststore-password <truststore-password>
```

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。